

「施策」総括票

施策展開	5-(2)-イ	生涯学習社会の実現	
施策	①生涯学習機会・体制の充実		349頁
対応する 主な課題	<p>○IT社会や国際社会の進展など急激な社会変化の中であって、仕事や生活のあらゆる面において絶えず新しい知識や技術の習得が求められているほか、経済的なゆとりや余暇の増大等に伴い、趣味や教養を高めたり、自己実現や生きがいを学習活動等に求める傾向が強くなっていることから、学びたいときに自発的に学ぶ環境づくりが課題となっている。</p> <p>○県民の潜在的な学習ニーズに対応した必要な学習機会、学習情報の適切な提供と、その学習成果が適切に評価される仕組み等を図るほか、関係機関が密接に連携した生涯学習推進体制の充実に取り組む必要がある。</p>		
関係部等	教育庁		

I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算額	推進状況	活動概要
○おきなわ県民カレッジ				
1	おきなわ県民カレッジ	3,403	順調	○沖縄県民カレッジにおいて20講座を提供し、861人が受講した。(1)
2	沖縄県生涯学習情報提供システムの整備・充実	800	順調	○ウェブサイト「沖縄県生涯学習情報プラザ」を通して、県民へ生涯学習情報を提供した。(2)
○生涯学習推進体制の整備				
3	生涯学習推進体制の整備	952	順調	○市町村の生涯学習推進体制状況調査(推進本部、推進計画、教育の日、フェスティバルの有無等)を行った。また、社会教育委員の会議を13回開催した。(3)
4	社会教育主事養成講座	361	順調	○社会教育指導者等を養成するための研究大会等を計画値7回に対し、6回しか実施できなかったため、やや遅れとなった。(5)
5	社会教育指導者等養成講座	198	やや遅れ	

様式2(施策)

○図書館機能の拡充					
6	図書館機能の拡充		—	順調	○県立図書館及び公立図書館との横断検索システムを18館に整備した。(6)

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	県・市町村の生涯学習講座の修了者数		90,655人 (22年)	110,786人 (24年)	115,000人	20,131人	—
状況説明	生涯学習講座についての講座情報のウェブサイト「沖縄県生涯学習情報プラザ」や新聞広告を活用した広報活動、かりゆし長寿大学校や各社会福祉協議会、市町村公民館等との連携により、受講者数が増加し、あわせて市町村の生涯学習担当者の資質向上、取組の強化により市町村の講座が充実したことから、生涯学習講座の修了者数が20,131人増加した。引き続き、講座内容の充実や広報活動を行い、平成28年度の目標値の達成を図る。						

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
おきなわ県民カレッジ(入学者数)	317人 (22年)	385人 (23年)	469人 (24年)	↗	—
沖縄県生涯学習情報プラザへのアクセス件数	38,695件 (22年)	38,257件 (23年)	38,354件 (24年)	→	—
生涯学習推進体制組織の設置率	57% (22年)	60% (23年)	61% (24年)	↗	—
生涯学習審議会・社会教育委員の会議の開催数	7回 (22年)	12回 (23年)	13回 (24年)	↗	—
市町村における社会教育主事設置率	44% (22年)	49% (23年)	37% (24年)	↘	—
県主催社会教育指導者養成講座 参加者総数	331人 (22年)	800人 (23年)	345人 (24年)	→	—
県民一人当たりの図書貸出冊数	3.4冊 (22年)	3.5冊 (23年)	3.5冊 (24年)	→	—

Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

○おきなわ県民カレッジ

・沖縄県生涯学習情報プラザの内容や、ウェブデザインが数年変化していないため、魅力あるサイトとなるよう見直しを行う必要がある。

○生涯学習推進体制の整備

・社会教育指導者等養成講座について、宮古地区が開催していないため、平成24年度は計画値7回に対し、6回の実施にとどまった。

○図書館機能の拡充

・図書館未設置市町村において読書に触れる機会を増やすことは重要な課題であるが、市町村財政の厳しさからなかなか設置が進まない状況である。

Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

○おきなわ県民カレッジ

・長寿化等の社会の変化により、定年後の時間の増大、自らの車の運転ができるアクティブな高齢者の増、また、グスク及び関連遺産群の世界遺産への登録等による沖縄の歴史・文化の見直しや価値観の高まり等により、生涯学習に対する県民の期待や学びのニーズは質的にも量的にも高まってきている。
・ITやグローバル化の進展により社会の著しい変化がおり、絶えず新しい知識や技術の習得が求められていることから、離島の地理的条件、デジタル情報格差を克服し、県民が「いつでも、どこでも、だれでも」自主的に学習できる生涯学習社会の実現が求められている。

○生涯学習推進体制の整備

・全国的にも社会教育主事の設置率が減少しており、設置に対し積極的でない市町村もある。

Ⅴ 施策の推進戦略案 (Action)

○おきなわ県民カレッジ

・沖縄県生涯学習情報プラザの内容や、ウェブデザインの見直しに向けて、掲載情報の点検・見直しや利用者の利便性の高いデザインのあり方について検討を行う。

・学びたい人へ確実に講座等の情報を届けるために、県民カレッジのメニューブックの増刷を行い、配布箇所を広げる。また、ウェブサイト「沖縄県生涯学習情報プラザ」を充実させ、講座受講者の増加を図る。

・沖縄県生涯学習情報プラザの機能の拡充を図るため、遠隔講義配信システムの導入に向けて調査研究に取り組む。

○生涯学習推進体制の整備

・社会教育指導者等養成講座について、平成25年度は宮古地区に必要性の意義や情報提供を行い、計画どおり7回研修会を開催し、社会教育活動の充実を図る。

・社会教育主事未設置市町村の状況調査を行い、未設置市町村に対しては重点的に社会教育主事講習について、チラシの配布や教育委員会ホームページを活用した周知・広報を行う。

○図書館機能の拡充

・今帰仁村においては、廃校となった中学校を活用した図書館運営を行うなど、市町村によって様々な工夫が見られる。図書館未設置町村に対してはこれらの情報を提供しながら、関係市町村教育委員会及び県内6地区教育事務所との連携を図り読書環境整備へ向けた指導・支援を行う。